

学力向上 老上プラン2018

【全国学力調査・学習状況調査より】

《老上っ子の強み》

- ・漢字の読み書き、計算問題など基本的な力がある
- ・目的に応じて文章を効果的に読める
- ・授業中に、質問することができる
- ・自分のことが好きな子が多い

《老上っ子の課題》

- ・登場人物の人物像を叙述をもとにして考える問題
- ・グラフを読み、条件に合わせて書き表す問題
- ・ローマ字を書く問題
- ・割合に関する問題
- ・示された文章やグラフを読み、理解し、それを説明する問題

【学校教育目標】

＜校訓 自主協同＞
ふるさとを愛し、人間力のある子どもの育成

【めざす子ども像】

- 自ら考え、判断し、行動する子ども（じぶんで）
- 相手の気持ちがわかり、共に生きる子ども（なかよく）
- 鍛え、やりぬく子ども（さいごまで）

【めざす学校像】

- 「継承」と「創造」に取り組む学校
- 「確かな学び」と「豊かな生活」を生み出す学校
- 「いのち・生き方・人権」の大切さを学び合う学校
- 地域とともに「協同する学校」

【めざす教職員像】

- 子どもと一緒に夢と自信を持たせる教職員
- 責任と役割を自覚する教職員
- 切磋琢磨し成長する教職員
- 人間味を感じさせる教職員

【老上学区の特性】

- ・京阪神への通勤・通学圏
- ・大規模住宅開発が計画（児童数の急増）
- ・高い教育意識の家庭
- ・オール老上、我が学校の住民意識（老上西小校区含む）
- ・学校を支えてくださる住民・保護者
- ・住民・保護者の学校・地域貢献への高い潜在意識
- ・人権を大切にする地域・学校

【具体的な取り組み】

★校内研究会の充実

国立教育政策研究所教育課程研究指定校事業の2年目として、30年度の校内研究主題を「自ら読みを深め、考えを形成する国語科学習の在り方 ～単元構成と教育課程の工夫改善を通して～」と設定した。子どもが課題意識をもって学習に向かい、情報を整理・活用し、他の人とのかわりを通して自らの考えを形成できるよう、授業改善を進める。

★老上スタイルの学習形態

学習の出口を見据え、1時間の授業の中で「課題」の提示、「まとめ」と「振り返り」の定着を図る。ホワイトボード等を活用し、学習の流れの提示など、授業のユニバーサルデザイン化を進める。朝学習では、音読・漢字・暗唱・読書・ドリルパークの活用・言葉集め・グループ討論・60（100）文字作文・老上っ子学びプリント等を計画的に実施する。

★学習習慣の定着にむけて

宿題は「漢字・計算・音読・（週末は作文・日記）」をセットに毎日出し、基礎学力の定着をめざすとともに、自主学習の取組みを通して、全校（学年×10分+10分）を目標に、家庭学習の習慣化を目指す。

★家庭学習チャレンジ週間

学期に2度（中学校の中間・期末テストに時期を合わせる）、家庭学習チャレンジ週間を実施し、計画・振り返りの時間をとり、主体的に家庭学習に取り組めるようにする。

★家庭・地域とともに

家庭学習の充実のために年度初めに「家庭学習の手引き」を配布する。（家庭学習で大事にしたいこと、自主学習をする時のポイントなどを確認する際に活用）手本となる自主学習ノートの掲示。また、基本的な生活習慣の見直しや、地域の方々へのあいさつ運動（言葉遣い）も学力向上につながっていることを学校便り、保健便りを通して啓発する。

★ICT機器の活用

タブレット・パソコン・電子黒板・大型テレビ等のICT機器を活用し、授業の中でわかりやすい資料提示や調べ学習、ムーブノートでグループ学習、オクリンクを活用して他校と遠隔授業、などを取り入れる。また、キーボード操作は学年に応じ、ローマ字打ちを勧める。また、昨年度に引き続き、Pepper 6台を活用し、プログラミング学習にも取り組んでいく。

★外国語活動

5・6年生では、週1時間JTE（日本人英語指導者）・ALT（外国語指導者）とともに外国語の学習に取り組む。また、ICTを活用し、外国との遠隔授業を行う。

誇りとやりがい、居場所と活躍の場

★読書活動推進と辞書の活用

一人ひとりが自分の本袋（マイブックバック）を机の横にかけ、すぐに読書に取りかかることができる環境や、読んだ本の冊数や一言メモを記録していく「読書カード・読書通帳」に取り組む。また、3年生以上は、常に辞書を近くに置き、積極的な活用を努める。

★教室はまちがうところだキャンペーン

定期的に校内放送で子ども達に受容的な風土づくり（各学級において）を呼びかける。

★身の回りの整理整頓

学校での生活目標を毎月設定し、30年度は1年間を通して「あたりまえのことをしっかりしよう」を合言葉に全校で取り組む。また、月ごとに具体的目標を決め、1か月間意識して取り組む。

